

人権つうしん

2007年 春号



みんなで人権について考えてみませんか?...

平成19年(2007年)3月26日発行

通算33号

発行 長野県教育委員会文化財・生涯学習課

発行人 生島和弥

長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-235-7437

FAX 026-235-7493

Eメール bussho@pref.nagano.jp

中学校の歴史 教科書は、今

中学校歴史教科書の 記述の見直し

社会科教科書に初めて同和問題(歴史分野)が記述されるようになったのは、一九七四(昭和四九)年です。その後、部落史研究の成果を取り入れながら、教科書記述の見直しがされています。特に、中学校用教科書では平成一四年度版から、江戸時代の身分制度に関する記述内容が大きく変わりました。

中学校の歴史教科書には、近世の身分制度に加え、中世の被差別民衆が日本固有の文化の創造に果たした役割や、アイヌの人々の生活や文化の歴史、女性の地位向上を目指す運動など、人権の視点から見て、明るい展望が持てる生き様が記述されるようになってきました。



龍安寺の石庭

使われなくなった『土農工商』

身分制度については、従来の暗く厳しい面が弱くなり、『土農工商』の表記はなくなっています。「土農工商」とは、本来は三千年前の古代中国で使われた「民」の職業を列挙した熟語であり、日本の身分制を正しく表した言葉ではありませんでした。教科書の中で、被差別部落の歴史に関わる記述についても見直しがされています。

具体的に、教科書の記述を見てください。

A社の中学校用の教科書の一部【きびしい身分による差別】を紹介します。

〈平成八年度改訂〉

・身分は、武士と百姓と町人に分けられ、また「えた」や「ひにん」とよばれる低い身分も置かれました。

〈平成一四年度改訂〉

・百姓、町人とは別に、えた、ひにんなどのきびしく差別されてきた身分の人々もいました。

〈平成一八年度改訂〉(現在使用)

・百姓・町人とは別に、えた身分、ひにん身分などの人々がいました。

現在は、『土農工商』や、上下

関係を連想させるような「低い身分」或いは「下の身分」という表現はなくなっています。

長野県内においても地域史料の研究が進められ、当時の様子が次第に明らかにされつつあります。



能楽

携帯電話(インターネット)と人権について

今、子どもたちの世界に急速

に普及し、プラスの面ばかりでなく様々な問題を引き起こしているのが、携帯電話(携帯インターネット)です。インターネットを使った深刻な問題の一つが、新しい形のいじめ(ネットいじめ)や人権侵害です。

メール、チャット、掲示板、友だち募集サイト、プリクラ交換ページ、ネットゲーム、フリーホームページ、ブログ、ブログ、学校別サイト等々、子どもたちが夢中になっているインタ

ーネット世界には、大人たちが知らない魅力が溢れています。しかし、匿名での書き込みが基本の掲示板やチャットページ、ブログなどで、個人情報や流し、誹謗中傷や個人攻撃によるいじめの問題が後を絶ちません。それが原因で不登校や人間不信になるなど、実際の生活に影響を及ぼす事例も増えています。本人が全く気づかないうちに、根も葉もないことを言いふらされたあげく、ネット上に写真がばらまかれ、何十人という匿名の人たちから中傷メールが入り、それがもとで、クラス内でいじめられた例もあります。

確かに便利な携帯電話ですが、使い方によっては重大な問題を引き起こす諸刃の剣です。子どもへの与え方や使い方を含めて、保護者や周囲の大人がもっと関心を持ち、子どももかかせず、さらに、子どもたちにしつかりした人権感覚を身につけさせ、健全な生活を送ることができるよう、周囲の大人たちが暖かい目で見守ってほしいものです。



(栗生楽泉園 重官房跡)

じんけんメッセージ



(多摩全生園 入所者棟)

～ ハンセン病療養所入所者の方の言葉から ～

故郷といえば、母親との悲しい別れだけが記憶にある。しかし、信州は何といても私の故郷。注目を浴びて帰れる若さはもうない。
(長島愛生園Nさん)

(園の入所者が子どもたちに伝えたいのは、弱者の立場を自分に置き換えて考えることだといいます。)
例えば、いじめをしている子どもがハンセン病の実状を知れば、いじめをやめるための判断力が身につくでしょう。私たちの話を聞いたことにより、子どもたちにおおらかなやさしさを持ってもらえれば幸いです。
(松丘保養園Iさん)

〔愛生園の看護学校に〕入ったら、やっぱり職員も一緒なんです。〔愛生園の看護学校の職員も、わたしを、入所者の子どもとして、差別的に見る。〕「あの子はねえ、あそこの入所者の子どもだって」って、もうそれが、ずうっと広まって。またそこに、暗く沈む……。「わたしはそう思われてる、そう思われてる。島の中でそう思われてる」。
(長島愛生園Aさん)

やっぱり、「そばへ来ると病気がうつる」って。わたしのそばへ行くと「病気がうつるから、そば行くな」。学校行っても、ひとりだけポツンと。だいたい、端っこのほうへ行ってるほうが多かった。……学校へ行くのが嫌だったんですよ。つねに嫌で嫌で……。
(長島愛生園Cさん)

療養所内で結婚し、すぐに妻が妊娠したが、問答無用で墮胎を強制された。女の赤ちゃんだった。墮胎の後、すぐにホルマリンの入った小さな瓶に詰められ、さも当然のように標本室に保管された。「四肢健全の娘でした。」取り出す際、泣き声をあげたことを後で看護師から聞かされました。この話は夫婦の間で今でもタブーです。亡くした娘の供養を今日まで50年近く欠かしたことはありません。子どもの命を絶つという耐え難い苦痛と悲しみはいつまでも胸の奥深く永遠に消えるものではありません。

ここに入ったからには、もう故郷とはこれでおさらばだとずっと思ってたからね。故郷へ帰ろうという気持ちは全然ないけれども、骨になってもここから垣根の外に出ていきたいという気持ちはずっとある。俺が死んだら骨を海に持って行って流してくれと頼んであるんです。
(多摩全生園Mさん)

親は治ったら帰ってこいと言っていたが、私は治っても帰るのは嫌だと言って行かなかった。国へ帰れば結婚しなくちゃならない。結婚すると子どもを産まなくてはならない。そうすると病気があるから、家族に迷惑をかける。それがあったら嫌だから、もう一生ここに居ようと思う。長野県に帰りたいたいという気持ちはまったくない。
(栗生楽泉園Oさん)

昔は「全生園に行っただけいけないよ」ということが多くあったようだが、今は子どもがここで遊んでいると親が安心するようになった。それだけ安全なんだ。「おはよう」ってあいさつも交わすよ。こういう交流が途切れずにつながっていくといい。
(多摩全生園Nさん)

妻の話では、お盆や正月の友だちの集まりで、宴会になったときに、ちょっと草津の話や病気の話が出ると、みんながシーンとしてしまう。だから、みんな知らないふりしているが、本当は知っているんだね。家では絶対草津の『く』の字も言わないそうだ。

うちで、おれが触ったものは、一切自分の山へ持って行って燃やしたそうだ。

兄貴は自分の病状を見てガタガタ震えていた。こんな恐ろしい病気になるんだったら、死んじまえばよかった。理解が深まればと一言で言うが、そんな簡単にはいかない。難しい話だ。
(栗生楽泉園Mさん)

《平成18年12月現在で、35名の長野県出身の方々が、全国各地のハンセン病療養所で生活されています。故郷を奪われた元患者の方々(平均年齢81歳)はもちろんですが、それだけでなく親や子、妻や夫、友を連れ去られ、沈黙を強いられてきた家族や友人が、県内各地で秘かに涙を流していることに想いを致したいと思います。》

人権クイズに挑戦！

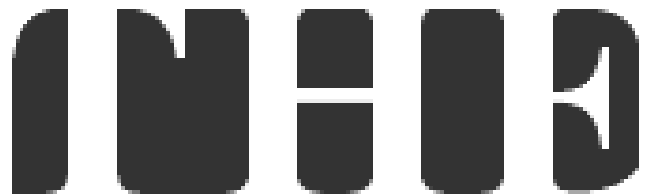
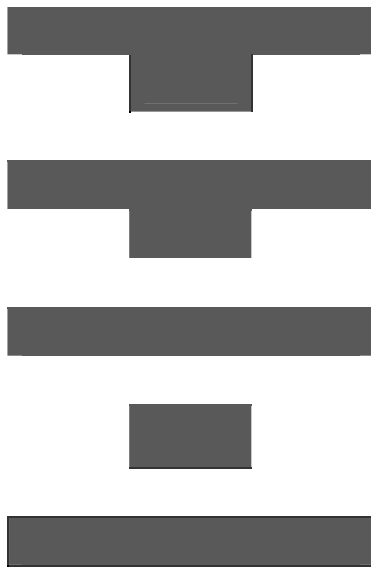
このシンボルマークをご存知ですか？

次のマークは何を意味しているでしょうか。

	<p>山頂の方向を知らせるもの 耳が不自由であることを知らせるもの この先に急カーブがあることを知らせるもの</p>		<p>なかよし 人類はみな兄弟 人権</p>
--	--	--	--------------------------------

	<p>車椅子で利用できるエレベーター 車椅子は3人で上げ下げすること 車椅子の人は上からの落下物に注意</p>		<p>ペット向けにつくられた食べ物 ペットが楽しく遊べるおもちゃ</p>
			<p>目・耳の不自由な子どもたちも楽しく遊べるおもちゃ</p>

「何と書いてあるでしょう？」



見方を変えると、何かが見えてくる！

の答え；耳が不自由であることを知らせるものです。このマークのブローチやペンダント、バッジを身につけている方が、銀行や病院等で放送の呼び出しに気付かない場合があります。「呼ばれていますよ」等の知らせ方を工夫して伝えてみてください。

の答え；「人権マーク」(人権擁護活動シンボルマーク：法務省人権擁護局)です。すべての人が生まれながらにもっているものであり、世界中のどの国においても「人権」が最大限に尊重され、互いの人権が共存するという願いが込められています。

の答え；車椅子で利用できるエレベーターです。交通バリアフリー法が平成12年11月に施行されました。警察庁は、この標識のほかにも、イラストと矢印でトイレやエスカレーター・段差のないスロープを示す道路標識を定めました。

の答え；共遊玩具のマークです。目(盲導犬マーク)や耳(ウサギマーク)の不自由な子どもたちが遊べるように配慮された玩具に表示されています。このように、誰もが自由に安全に、快適に利用できるように生活環境などをデザインするという考え方は、「ユニバーサルデザイン」として社会福祉に取り入れられ広がっています。

の答え；「ココロ」(心)

の答え；「L I F E」(生命)

の答え；「THE」

「学校を支える思い」 あるブラジル人学校から



A市にある「B学園」。ブラジルから働きに来ている人たちの子ども八十余人にブラジル人学校の分校として、学校認可を得て教育しています。

この学校ができた経緯を、まず学園の総務責任者でブラジル出身のCさんにかがいました。

B学園は、平成十四年にD市にある人材派遣会社が、ブラジル籍の幼児から高校生までの幅広い児童生徒を受け入れるために作った学校だそうです。

子どもたちの指導と送迎は、学園のスタッフであり、教員免許をもつブラジル人教師が行っているそうです。二年後の移転で広く新しくなっ

た教室は、窓からの眺めもよく、学習環境はとても良好とのこと。

こうした環境の中、子ども達はブラジルの教科書を使って、ポルトガル語、算数、理科、歴史、地理、英語などを自分のペースで勉強しています。

実際に子どもたちの様子を見させていただきましたが、年齢ごとの教室にわかれて、教師も生徒も熱心に学習を進めていました。また、どの教室でも元氣よく挨拶をしてくれたのが印象的でした。



この学校を作ったE社長さんにお会いし、設立までの経緯や願いをお聞きしました。

「ブラジルから来た人たちの子どもたちは、最初は日本の学校に通っています。でも、言葉や生活習慣などの壁が原因で学校に行かれなくなり、家にずっといるという状況をいくつも目にしてきました。子どもだけでなく、事件や事故に巻き込まれる恐れが多く、心配でした。親は、子どもが家にずっといるのが心配で、安心して仕事ができないこともあるそうです。そこで、親に集中して仕事ができる環境作りが必要だと感じました。また、子どもの教育をきちんとやるうという教育熱心な親たちは、安心して任せられる学校があればと願っています。こうした人たちのために何かできることをしたい。」

と、B学園を作ったそうです。

しかし、子どもたちの通学してくる範囲が広いため、学園のワゴン車六、七台で、スタッフやアルバイトの方が送迎しているとのこと。教員免許のある教師を確保することも大変なようでした。

E社長さんに「そんなに大変なことなのに、なぜB学園を運営しているのですか？」とお聞きしました。すると、にこやかに、

「それは、恩返しです。私が経営しているこの会社は、人材派遣会社です。ブラジルの人たちが働いてくれるお陰でこの会社が成り立っています。ですから、ブラジルの子どもたちを支援することを通じて、少しでもお返しができるば・・・と思ってやっています。」

この言葉を聞いたときに、B学園のCさんが、
「私たちは、E社長の

お陰で子どもたちを安心して育てることができました。E社長さんが子どもたちのことを心配してこの学園を作ってくれたことを、とてもありがたく思っています。ですから、私はB学園の仕事や子どもたちのことを一生懸命やっていきたく思います。どんなに大変でも、E社長の思いを受け止めて、頑張っていきたいです。」

と語っていたのを思い出しました。
E社長さんとCさんの言葉から、互いが持っている「子どもたちのために」という強い思いがうかがえます。

そのことが二人の間に、いっそう確かな信頼関係を築き上げているように思われました。

